



野菜の需給・価格動向レポート(平成25年10月7日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類		9月の価格情報				生育及び価格の10月の見通し	
		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均 販売価額				
			上旬	中旬	下旬		
葉 茎 菜		74.19	85	91	93	・入荷見込量：16,170(98) ・主産地：群馬(63)、千葉(16)、岩手(8)、茨城(6)	・群馬産は、小玉傾向であるものの生育は順調で、平年並みの出荷の見込み。ピークを過ぎ、中旬より減少傾向。千葉産は、順調な生育で生育の遅れも回復し、今後は日々出荷量が増量する見込み。岩手産は、少なめの出荷の見込み。 ・群馬産及び千葉産の出荷が順調と見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		88.91	86	89	92	・入荷見込量：3,900t(90) ・主産地：群馬(62)、長野(24)	
	 (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ)	273.33	311	292	273	・入荷見込数量：5,650t(98) ・主産地：青森(29)、北海道(17)、秋田(11)、山形(9)、茨城(7)、岩手(6)、輸入(4)、新潟(4)	・青森産は、9月の長雨等の影響で病害が発生しているものの、平年並みの出荷となっている。北海道産は、長雨の影響はあるものの、順調な出荷で平年並みの出荷の見込み。秋田産は、7月の集中豪雨等の影響で、平年より少なめの出荷の見込み。 ・青森産及び北海道産の出荷が順調と見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。
		487.13	455	566	585	・入荷見込数量：190t(78) ・主産地：香川(33)、大阪(13)、三重(12)、徳島(12)、奈良(8)、愛媛(6)、高知(6)	
		78.06	97	109	80	・入荷見込量：14,200t(100) ・主産地：長野(77)、茨城(13)、北海道(6)	・長野産は、夜温の低下により生育が停滞しやや小玉傾向であるものの、作付面積の増加している時期の出荷となり、平年並みの出荷となる見込み。茨城産は、生育が順調で、中旬から出荷を開始する見込み。 ・出荷が順調で平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
		88.72	101	115	78	・入荷見込量5,200t(91) ・主産地：長野(93)	
		583.95	767	790	702	・入荷見込量：1,360t(95) ・主産地：群馬(37)、栃木(15)、茨城(15)、千葉(10)、岩手(7)、埼玉(5)	・群馬産は、生育が順調な平坦部の出荷の時期となり、平年並みの出荷の見込み。栃木産は、朝晩の気温の低下により、少なめの出荷となっているが、今後回復する見込み。茨城産は、順調な出荷の見込み。 ・出荷は概ね順調であり、価格は安定的に推移するが、旬に向かい低下するこの時期の平年の価格を、上回って推移する見込み。
		670.86	821	842	797	・入荷見込量：520t(100) ・主産地：岐阜(62)、福岡(8)、和歌山(7)、群馬(6)	
		158.27	118	157	147	・入荷見込量：9,740t(100) ・主産地：茨城(64)、長野(26)、栃木(7)	・茨城産は、最近の降雨等による生育への影響が懸念されるものの、平年並みの出荷となっており、下旬のピークに向けて日々出荷量が増加する見込み。ピークを過ぎた長野産は、朝晩の気温の低下により、生育が停滞し、少なめの出荷になっており、今後も少なめの出荷が続く見込み。 ・今後の主産地である茨城産の出荷が順調と見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。
		152.57	119	170	162	・入荷見込量：1,400t(95) ・主産地：長野(45)、茨城(36)、兵庫(16)	
		84.85	102	105	106	・入荷見込量：10,570t(95) ・主産地：北海道(86)、輸入(10)	・北海道産は、収穫は9月末で終了、今後は選別をし、計画的な出荷となるが、7月の少雨等の影響で小玉傾向、豊作だった前年よりは少なめの出荷となる見込み。 ・北海道産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		84.85	119	123	113	・入荷見込量：3,900t(99) ・主産地：北海道(75)、兵庫(24)	
果 菜		210.69	341	407	352	・入荷見込量：6,090t(98) ・主産地：埼玉(33)、群馬(22)、茨城(12)、福島(9)、栃木(6)	・埼玉産及び群馬産は、定植が高温の影響で遅れていたことから、少なめの出荷となっているものの、中旬から増加する見込み。茨城産は、生育が回復傾向なものの、平年より少なめの出荷となっている。福島産は、露地物からハウスものの出荷となりピークを過ぎ減少傾向ではあるものの、平年並みの出荷の見込み。 ・埼玉産及び群馬産の出荷の増加が見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		221.71	374	419	343	・入荷見込量：1,200t(95) ・主産地：宮崎(22)、北海道(17)、群馬(13)、大阪(13)、福島(9)、愛媛(8)	
		229.51	353	326	368	・入荷見込量：5,790t(97) ・主産地：千葉(25)、茨城(17)、福島(12)、青森(8)、愛知(7)、群馬(6)	・千葉産は、夏の高温の影響や、朝晩の気温の低下により少なめの出荷で、中旬まで少なめの出荷の見込み。茨城産は、台風の影響で、傷果等の発生や朝晩の気温の低下から少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。福島産は、気温の低下により小玉傾向で、少なめの出荷となる見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		271.33	365	371	379	・入荷見込量：1,100t(98) ・主産地：岐阜(25)、北海道(20)、熊本(14)、岡山(9)、石川(7)、愛媛(7)、愛知(6)	
		209.55	304	349	372	・入荷見込量：3,640t(93) ・主産地：高知(31)、栃木(22)、群馬(16)、茨城(12)、福岡(5)	・高知産は、順調な生育で出荷が始まり、下旬に向けて出荷量が増加する見込み。ピークを過ぎた関東産は、成り疲れや台風による傷果等の発生、気温の低下による生育の停滞により、少なめの出荷であり、今後も少なめの出荷の見込み。 ・今後の主産地である高知産の出荷の増加が見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		221.72	318	311	282	・入荷見込量：750t(96) ・主産地：高知(22)、徳島(21)、山梨(10)、京都(7)、熊本(7)、大阪(6)、岡山(6)	
		263.58	387	427	381	・入荷見込量：2,060(98) ・主産地：茨城(60)、岩手(17)	・茨城産は、夏場の高温の影響で花落ちが見られ、少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。岩手産は、春先の低温少雨の影響で、樹勢が弱く、少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。 ・これまでと同様に平年と比べ少なめの出荷が見込まれることから、価格は、安定的に推移するものの、平年を上回って推移する見込み。
		282.16	418	477	443	・入荷見込量：430t(85) ・主産地：青森(18)、宮崎(13)、福島(12)、兵庫(12)、高知(10)、大分(8)、北海道(7)、鹿児島(7)	
根 菜		94.6	112	125	130	・入荷見込量：12,740t(95) ・主産地：青森(33)、北海道(31)、千葉(23)、岩手(6)	・青森産は、台風等の影響により、出荷量が減少し、今後も少なめの見込み。北海道産は、長雨の影響と気温低下による影響で、平年より少なめの見込み。千葉産は、好天により生育が順調となり、平年並みの出荷で、今後は日々増量する見込み。 ・青森産及び北海道産の出荷が少なめであるが、千葉産の出荷が本格化すると見込まれることから、価格は、安定的に推移するものの、平年を上回って推移する見込み。
		100.39	112	125	125	・入荷見込量：4,400t(100) ・主産地：北海道(31)、石川(31)、青森(12)、新潟(10)、岩手(7)	
		123.08	121	122	128	・入荷見込量：8,770t(100) ・主産地：北海道(90)、輸入(2)	・北海道産は、順調な生育となり、出荷のピークを迎えている。今後も平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。
		123.11	125	125	129	・入荷見込量：2,700t(96) ・主産地：北海道(98)	



種類		9月の価格情報				生育及び価格の１０月の見通し	
		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均 販売価額				
			上旬	中旬	下旬		
い  も		242.66	278	300	272	・ 千葉産は、夏場の高温と少雨の影響で小玉傾向で少なめの出荷となり、今後も少なめの見込み。埼玉産は、玉の肥大も進み、順調な出荷の見込み。 ・ 千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		220.11	352	300	236		
		101.61	134	134	129		・ 北海道産は、収穫がほぼ終了。地区により作柄はまちまちであるが、全体では最も出荷の多い十勝地域が良かったことから、平年並みか平年を上回る見込み。JRの脱線事故で、輸送が遅れていたことから、通常より遅れた出荷のピークを今迎えている。 ・ 順調な出荷が見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づくと見込み。
		101.61	139	143	126		

注： 1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)。  
2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。( )内は前年対比。さといもは、前年実績。  
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。  
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は青ねぎ、レタスについてはレタス（結球）、トマトについてはトマト（大玉）の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、8月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,422gで前年比104%、購入金額は、1,741円で同108%となり、購入数量は前年をやや上回り、購入金額はかなり上回った。

また、小売物価統計によると、9月のキャベツの小売価格は、143円で過去5か年平均比101%、レタスは、438円で同83%となり、キャベツは過去5か年平均並みとなり、レタスは大幅に下回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額（1人当たりの購入数量と購入金額）

年	過去5か年平均		平成24年		平成25年			
	購入数量（g）	購入金額（円）	購入数量（g）	購入金額（円）	購入数量（g）	前年比	購入金額（円）	前年比
1月	4,271	1,557	4,189	1,634	4,243	101	1,669	102
2月	4,447	1,610	4,499	1,735	4,553	101	1,652	95
3月	4,797	1,765	4,584	1,851	4,961	108	1,769	96
4月	4,723	1,834	4,620	1,904	5,019	109	1,809	95
5月	5,055	1,905	4,945	1,948	5,257	106	1,861	96
6月	5,048	1,881	5,103	1,875	5,249	103	1,897	101
7月	4,421	1,691	4,386	1,675	4,456	102	1,783	106
8月	4,318	1,689	4,245	1,618	4,422	104	1,741	108
9月	4,839	1,783	4,916	1,703		0		0
10月	5,280	1,840	5,242	1,761		0		0
11月	5,030	1,630	5,039	1,602		0		0
12月	5,140	1,837	5,169	1,888		0		0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」注：過去5か年平均は、平成20～24年の平均。

主要野菜の小売価格（東京都区部）  
(単位：円/kg)

	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成25年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成25年	5か年比(%)
1月	187	203	109	579	904	156
2月	203	204	100	555	722	130
3月	207	181	88	512	434	85
4月	248	207	83	466	426	91
5月	175	133	76	369	318	86
6月	140	137	98	338	274	81
7月	149	173	116	308	385	125
8月	138	140	101	414	371	90
9月	142	143	101	526	438	83
10月	150		0	467		0
11月	155		0	385		0
12月	148		0	495		0

資料：総務省「小売物価統計調査報告」  
注：1 過去5か年平均は、平成20～24年の平均。  
2 平成25年9月の値は、9月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

8月の野菜の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年比95%の5万6千トン、加工野菜は、同99%の15万8千トン、野菜全体は、同98%の21万4千トン、うち中国は同99%の11万4千トンとなった。生鮮野菜は前年をやや下回り、加工野菜は前年並み、野菜全体はわずかに前年を下回った。

野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

区分	平成23年		平成24年		平成25年1~8月		平成25年8月	
		前年比		前年比		前年同期比		前年同月比
生鮮野菜	915,091	112	946,931	103	555,688	80	55,593	95
加工野菜	1,803,510	107	1,909,671	106	1,239,791	98	158,413	99
野菜合計	2,718,600	109	2,856,601	105	1,795,480	92	214,006	98
うち中国産野菜合計	1,409,984	110	1,458,418	103	896,688	92	113,696	99
中国産シェア	52		51		50		53	

資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

品目	輸入先	平成24年8月(A)	平成25年8月(B)	(B)/(A)
たまねぎ	合計	27,182	22,883	84
	中国	24,303	22,155	91
	アメリカ	1,490	627	42
にんじん	合計	4,696	6,514	139
	中国	4,306	6,223	145
	ニュージーランド	218	245	113
ねぎ	合計	4,085	4,870	119
	中国	4,082	4,868	119

資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成25年8月は、速報値。

4 トピック ― 7～9月の野菜価格の動向 ―

平成25年の夏(7～9月)は、関東以西では梅雨明けも早く、各地で最高気温の記録を更新するなど暑い夏となった。  
近年では、平成22年が猛暑で、野菜価格も高値で推移したが、本年は平成22年とは異なる値動きをした。  
平成22年の夏は、高温・小雨の影響により、野菜価格がほぼ全期間にわたって平年を上回り、期間を通じて上昇傾向を示した。  
一方、本年の夏は、7月は高値で始まったものの、8月中旬に平年並みの価格となり、その後再び平年を上回る動きを示した。  
このような値動きを示したのは、特にきゅうりやトマトなどの果菜類の入荷量の変動の影響が大きい。これをきゅうりで見ると主産地の東北では、7月までは気温が平年を下回るなどにより、入荷量が平年に比べて少なめで推移していたものの、8月上旬の梅雨明け後は好天に恵まれ、入荷量が一気に回復した。しかしながら、8月下旬以降、5～7月の天候不順の影響から早めの出荷終了を迎えたことに加え、後続産地の関東産等は、夏場の高温の影響で定植等の遅れにより、入荷量が平年を下回った。  
平成22年9月は7～8月と同様に高温・小雨傾向で推移したのに対し、本年9月は平年並みの気温となり、適度な降雨となった。今後、価格は夏の高温の影響が残り、果菜類等で当面は平年を上回る品目もみられるものの、徐々に落ち着いてくるものとみられる。

### 指定野菜の卸売価格の推移（7～9月 東京都中央卸売市場）

注：平年は、過去5か年（平成20～24年）の旬別価格の平均値。

資料：農林水産省「青果卸売市場調査」

### きゅうりの卸売価格と入荷量の推移(7～9月 東京都中央卸売市場)

資料：青果物情報センター

### トマトの卸売価格と入荷量の推移(7～9月 東京都中央卸売市場)

資料：青果物情報センター